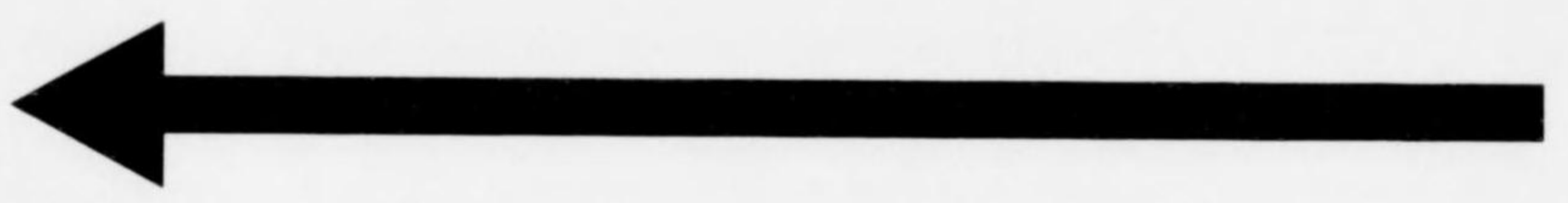


特236
259



始



特236
259

極

秘

昭和
一四、五、一五

本邦生護謨自給ニ関スル一考察

A、自給計畫要旨	一頁
B、說明	三
世界護謨資源地圖	
一序論	五
二護謨栽培ノ自然的條件	七
三護謨栽培ノ技術的・經濟的條件	八
四護謨自給諸設備	九
C、海南島護謨業	一二
海南島護謨資源地圖	
一護謨栽培現狀	一三
二氣象	一八
D、參考資料	二二
一國際限產協定	二三
二護謨生產內外統計	二七

四頁三行目	正
一〇頁二行目	誤
一六頁二行目	
一七頁二行目	誤
二五頁五行目	
三〇頁三行目	正
三一頁二行目	

右方向 二、年労働人数 ト、ト、	誤
檳榔 両方 地上二、時ニ 於ケル樹園	誤
檳榔 両方 地上二、時ニ 於ケル樹園(時)	

颶風方向 一、年労働日数 (不要)	正
檳榔 両方 地上二、時ニ 於ケル樹園(時)	誤
檳榔 両方 地上二、時ニ 於ケル樹園	

1.

△
自給計畫要旨

△
〇
△

自給計畫要旨
一、自給計畫の目的
二、自給計畫の範囲
三、自給計畫の期間
四、自給計畫の責任
五、自給計畫の推進
六、自給計畫の成果

昭和二十二年三月

A、本邦生ゴム自給計畫要旨

<p>本邦生護謨需要量</p>	<p>栽培自然的條件</p>	<p>經營並勞働條件</p>
<p>總量、九七二一九噸 價格、九七二一九千円</p>	<p>緯度、南北十五度圈內 氣溫、一年ヲ通シ華氏七十度降 ラサル地 雨量、一ケ年九〇一—一〇〇吋 地勢、海拔三、〇〇〇尺以下ノ 地ニシテ緩傾斜、高燥排 水ヨキ地 地質、黃砂礫石混セルモノ 適地、馬來半島、セイロン、英 領印度、英領ボルネオ、 サラワク、蘭領東印度、 佛領印度支那、暹羅</p>	<p>植付面積、五一四三九〇英反 護謨苗樹、一〇二八七八千本 使用人種、馬來人、支那人、 印度人等 所要勞働者數(一日平均) 九〇七五五人</p>

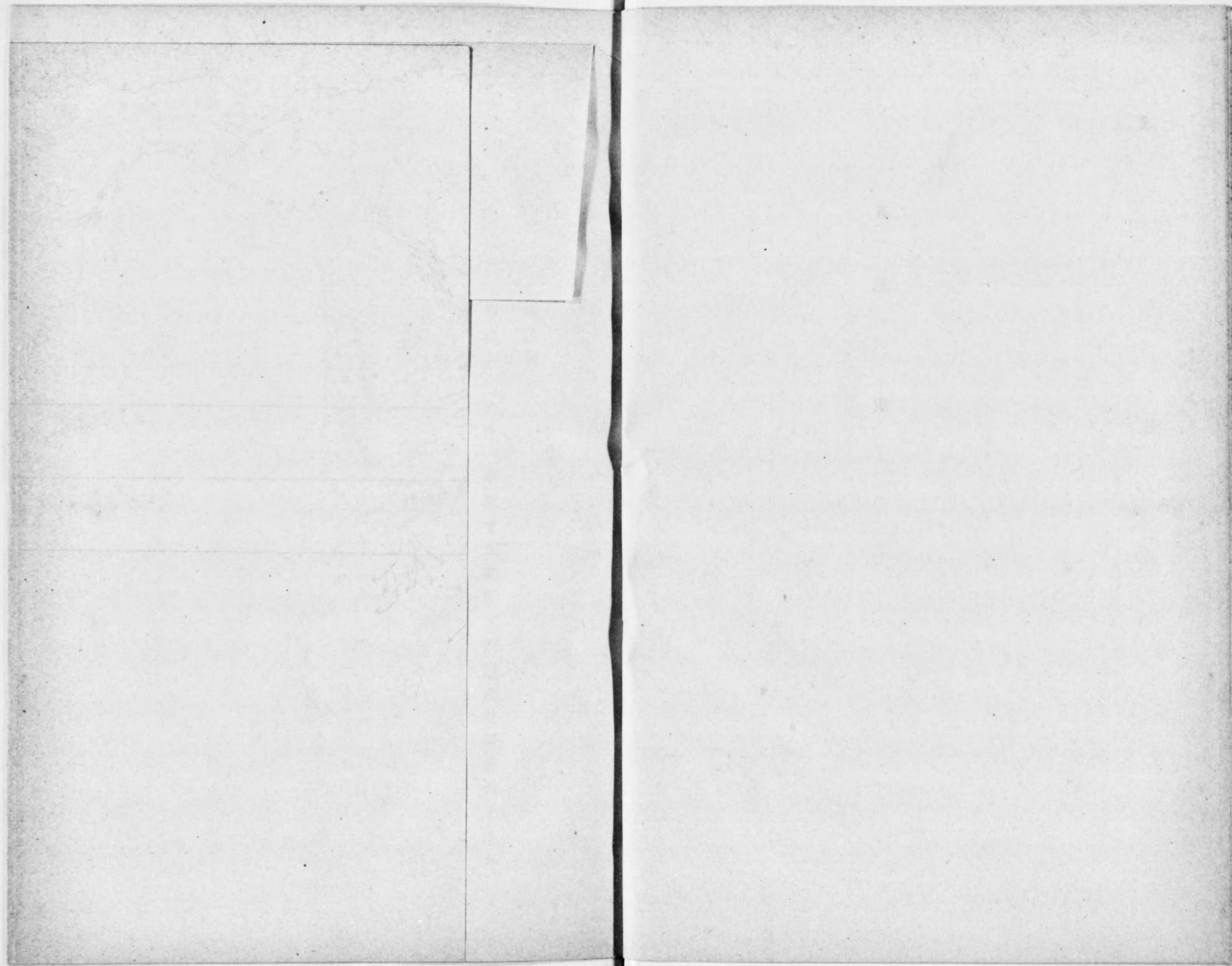
資 金 関 係	備 考
一ヶ年所要資金、 八五七三〇千円	需要數量ハ昭和十三年度改訂物動 計畫ニヨル、價格モ全シク物動輸 入單價(應一〇〇〇円)ニヨル
内 設備資金、 二五七一九千円	
譯 労働賃銀 六〇〇一一千円	
總資金、(五ヶ年) 四二一六五八千円	
内 設備資金 一二六四九七千円	
譯 労働賃銀 二九六一六一千円	
労働者一人當賃銀 (平均) 二・三三円(七〇仙)	

3.

B

說

明



世界護謨資源地圖

→ 熱帶風速
 → 夏季風速
 → 冬季風速
 ▨ 護謨栽培地域



護謨資源地圖說明

南北回歸線間ヲ熱帶圈トナスモ、南北十五度間ヲ護謨栽培最適地トナス。
而シテ颱風圈内ハ護謨栽培ニ適セサレハ右方向ヲ指示セリ。

英米佛三國ノ南洋産生護謨依存度(單位噸)

總輸入額三對ノ南洋 地依存度(%)	計	葡領 千毛爾	葡領 印度	比 律 賓	暹 羅	佛 領 印 度 支 那	英 領 荷 爾 木 牙	海 峽 植 民 地	英 領 馬 來	英			米			佛			
										一九三三	一九三四	一九三五	一九三六	一九三七	一九三三	一九三四	一九三五	一九三六	一九三三
七四三	七七八					一三九	六四九	五八三	一八七	一〇四七	二〇七	二七四	二七九	六五八	四八	四八	八二	八八	九一
六八三	七〇八					一三三	一三二	一〇一	四四	二七	四三	四三	二七	八五	八	八	二六	二六	二六
六九六	七二二					一三三	一三二	八〇	四二	二七	四三	四三	二七	八五	八	八	二六	二六	二六
五九一	六八九					一四〇	一〇七	一五	三三	二八	三三	三三	二七	八五	八	八	二六	二六	二六
六五九	七四五					四三	二六	三九	五二	四八	四八	四八	三三	八五	八	八	二六	二六	二六
八〇二	八二六		七二二	四八		二七			三三	三三	三三	三三	二七	八五	八	八	二六	二六	二六
八二六	八二六		八〇九	二八		七			三三	三三	三三	三三	二七	八五	八	八	二六	二六	二六
七三五	七三五		九〇九	四八		三			三三	三三	三三	三三	二七	八五	八	八	二六	二六	二六
八八四	八八四		三六九			六			三三	三三	三三	三三	二七	八五	八	八	二六	二六	二六
九七一	九七一		五〇			九			三三	三三	三三	三三	二七	八五	八	八	二六	二六	二六
九二〇	九二〇		六二五			一〇			三三	三三	三三	三三	二七	八五	八	八	二六	二六	二六

序論

本邦生護謨需要ハ軍需ヲ始メ各種用途頗ル多シ。今過去三ヶ年ノ輸入額ヲミルニ次ノ如シ。

昭和十一年	六三、八八六噸	七二、九五七千円
十二年	六三、七五五噸	九九、二一八、
十三年	四七、〇六一噸	五一、三七四、

即チ昭和十二年ニ於テハ輸入額約一億円ニ達セリ。

斯カル多額ノ生護謨ヲ需要スルニ拘ラス本邦ハ内地ニ於テハ勿論ノコト外地ニ於テモ生産皆無ニシテ主トシテ南洋諸国ニ依存ス。故ニ一度護謨資源所有国ト經濟斷交行ハルルトキハ国防上由々數キ事態ニ直面スルニ至ルヘシ。右ハ獨リ本邦ノミナラス護謨資源ナキ米国モ又然リ、英佛ニ於テモ本國ハ生産ナク偏ヘニ南洋ヨリノ輸入ニ俟テリ。(英米佛三国ノ南洋産生護謨依存度並本邦護謨国別輸入表参照)コレヲモツテ見ルモ護謨資源ハ南洋カ絶對的ノ地位ニアルコト瞭カナリ。

計	其 他	北 米 合 衆 國	和 蘭	英 吉 利	佛 領 印 度 支 那	蘭 領 印 度	海 峽 植 民 地	英 領 印 度	國 別
七 一 八 二 二	五 三 九 七	四 五	二 〇	九	一 七 一	一 六 八 六 〇	四 八 五 二 八	七 九 二	昭 和 九 年
五 九 六 八 一	一 六 四 八 七	一 七	一	九	二 〇 三 四	一 三 二 二 六	二 七 六 八 三	二 二 五	昭 和 十 年
六 三 八 八 六	一 七 六 八 〇	二 四 五	七	一 二	三 五 九 九	一 九 八 七 二	二 〇 七 八 五	一 六 八 六	昭 和 十 一 年
六 三 七 五 五	一 五 二 六 三	一 四 六	一	二 八	五 四 七 七	一 六 五 八 五	二 六 〇 三 六	二 二 〇	昭 和 十 二 年
四 七 〇 六 一	一 一 六 八 〇	五	一	一	一 二 四 〇	一 〇 八 九 九	二 三 一 八 五	五 二	昭 和 十 三 年

本邦護謨國別輸入表

(單位應)

昭和十三年度物資動員計畫ニ於ケル生護謨需要數量ハ九七、二一九噸（二一四、三二九、〇〇七封度）ト推定セラル、從ツテ右數量ノ生護謨自給ヲ假定シテ技術的、經濟的諸條件ヲ考察セハ以下ノ如シ。

ニ護謨栽培ノ自然的條件

イ、赤道線ヨリ緯度南北各十五度圏内ヲ栽培適地トス。

ロ、雨量ハ一年ヲ通シ九〇—一〇〇吋程度。

ハ、海拔三、〇〇〇尺以上ハ栽培ニ適セス。

ニ、氣温ハ最低華氏七〇度以上ニシテ、高温ニハ限度ナシ。

ホ、急傾斜地ハ不可ナルモ緩傾斜地ヲ最上トシ、平地ハソレニツク、

即チ高燥ナル區域ニシテ排水ヨキ地タルヘシ。

ヘ、海水ノ入ル土地、地下水ノ高キ濕地、極端ナル砂分、粘土質地ハ

栽培ニ不向ニシテ黃砂ニ礫石ノ混セルヲ上乘トナス。

ト、南洋ノ土地ヲ所生植物ニヨリ區別セハ一處女林、ニ雜生林、ニ草
地ト區別セラルルモ處女林カ栽培ニ最モ適ス。

護謨栽培ノ技術的・經濟的條件

護謨園開拓ヨリ採液期ニ至ルマテ五―六年ヲ要シ、ソノ採取ニ最モ適スルハ八―九年乃至二五年程度ナリ。

參考資料第二表、本邦主要護謨會社八社平均年當採取量ハ一英反當リ四〇六封度ニシテ、最高五一三封度、最低三二五封度ナリ。シカシナカラ最近改良セラレシ優良多產樹ニヨルトキハ一―一二年生樹ニシテ一、二〇〇封度採集可能ニシテ五―七年生樹ニテモ平均五〇〇封度採集セラルトイフ。從ツテ芽摘苗ト稱セラル、多產樹ニヨルトキハ同一面積ニ於テ普通苗ノ倍額ノ收穫可能ナリ。

護謨園ニ於ケル植付ハ一英反當リ苗樹二〇〇本程度ニシテ逐次不良苗病苗ノ摘除ヲ行ヒ五―六年後ニハ一四〇―一五〇本程度ニ減セシム。處女林ノ開拓ヨリ採液期マテハ多少ノ例外アルモ、通例五ヶ年ニシテ一英反當リ開墾費三〇〇米弗前後ナリ。内譯左ノ如シ。

勞働賃金（一人一日平均七〇仙、延人員三〇〇人） 二一〇弗（七〇〇円）

監督、器具費等

九〇弗（三〇〇円）

而シテ労働者ハ支那人、印度人、馬來人等ニシテ支那人ノ賃銀最モ高シ。(実收一弗前後)

四 護謨自給諸設備

以上ヨリ生護謨九七、二一九觔(二一四、三二九、〇〇七封度)自給ヲ假定シテソレニ要スル護謨樹植付、採集面積並所要金額ヲ推定セハ以下ノ如シ。

214,329,007 lb 所要採集面積
500 lb 428,658 (英反)

即、所要採集面積ハ四二八、六五八英反ニシテ植付面積ヲ二〇%増トミレハ五一四、三九〇英反ナリ。一英反當リ苗樹二〇〇本トスルトキ所要護謨苗樹ハ一〇二、八七八、〇〇〇本ナリ。右開舉ニ要スル資金ヲ假リニ一英反當リ三〇〇米弗(邦貨換算一、〇〇〇円程度)トセハ總資金一二八、五九七、四〇〇弗(四二一、六五八千円)ニシテ一年二五、七二〇千弗(八五、七三〇千円)ヲ要ス。

而シテ一英反五ヶ年延労働人員三〇〇人ナル故、總植付面積五一四、

三九〇英反ニ必要トスル一日平均労働者数ハ左ノ如シ。

植付面積

／英反ノ年労働者数×ノケ年労働人数 一ノ日平均延労働者数

$$\frac{514,390}{60 \times 340} = 2,507.5 (\text{人})$$

労働者一人當担当植付面積五・六英反(註)

而シテ労働力ノ供給ニ就テハ英領ノ場合、支那、印度労働者比較的豊
富ニシテ著シク不足ヲ來スコトナカルヘシ。現在邦人労働者ハ皆無ナ
リ。

註、試ミニ一九三五年年度ニ於ケルシヤム護謨生産ニ對スル從業者数ヲ
舉ケレハ次ノ如シ。(南洋叢書シヤム篇)

護謨生産	二八、五四〇噸	
植付面積	二八七、六二〇英反	(收穫量一英反當リ二二〇封度)
從業者数	五三、一九二名	

内 譯	シヤム人	一七、〇二九名
	マレー人	三〇、三九四
	支那人	五、七二五
	其他	四四

10. シヤムニ於ケル労働者一人當担当植付面積ハ五・四英反ナリ。

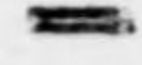
備考

参考資料(一)ニ述ヘシ如ク現在国際限産協定存在シ主要産地ヲ悉ク包括セリ。海南島ノ如キハ産出額僅少ニシテ從來支那本国ノ需要ニ充テラレ、今後ハ本邦ニ移入セラレ、モノトセハ問題ナシ。然シナカラ英、蘭、佛領等ノ南洋諸国ニ於ケル生産ヲ本邦ニ輸入セントスル場合例ヘ邦人經營ノモノニセヨ協定ノ制限ヲ受ケサルヲ得ス。從ツテ右謾産地ノ本邦勢力圏ヘノ包含ノミカ需要充足ニ殘サレタル道ナリ。

0
海
南
島
護
謨
業

Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

海南



20°

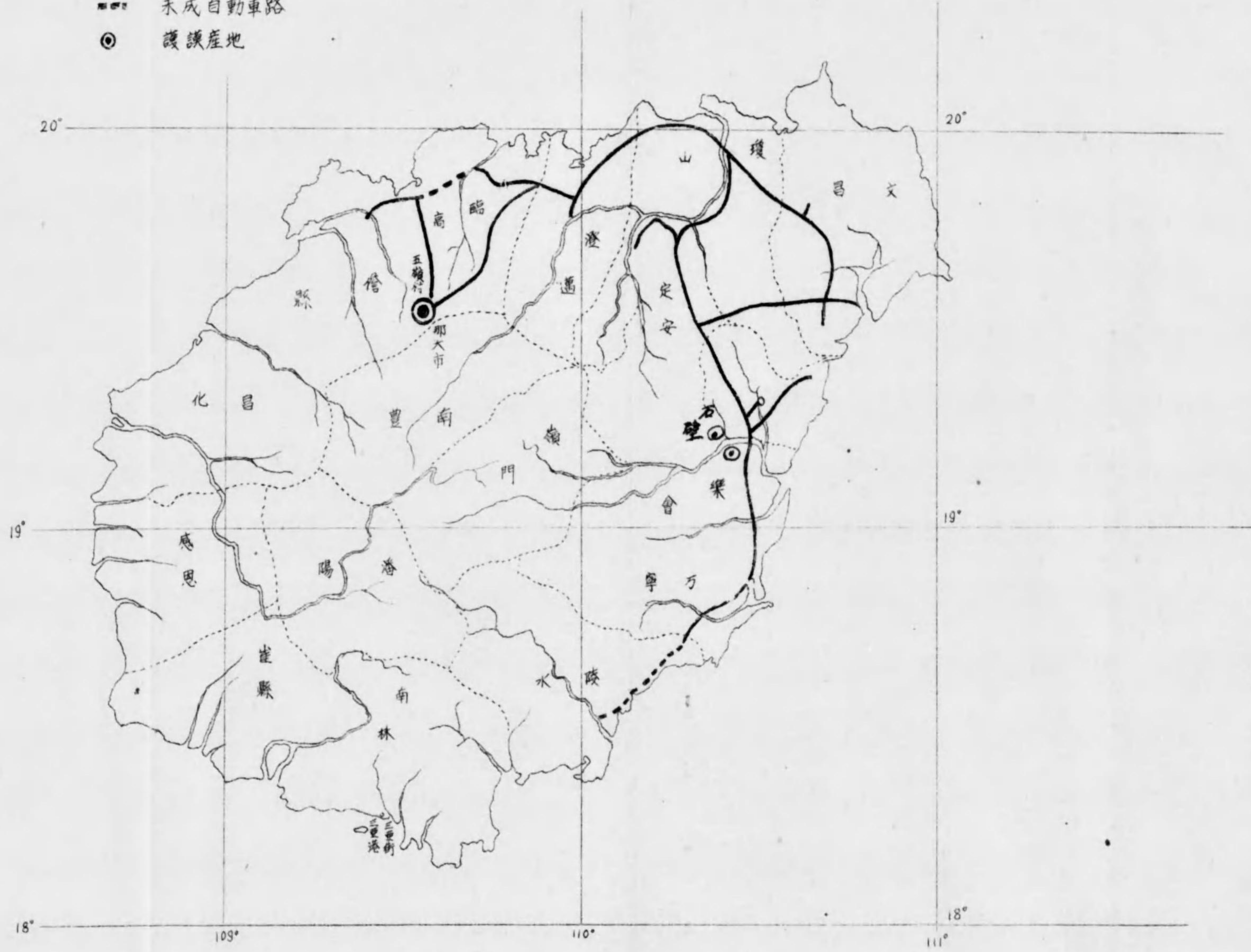
19°

18°



海南島護護資源地圖

- 既成自動車路
- - - 未成自動車路
- ◎ 護護產地



一 護謨栽培現狀

海南島ハ北緯十八度九分ヨリ廿度十分ニ亘ル亞熱帶圈内ニ在ス。護謨栽培ニ就テハ宣統二年（一九一〇年）以來三十年ノ歴史ヲ有シ民國四
年生護謨五〇〇斤、同五年一、一〇〇斤、同六年一、八〇〇斤、同七
年三、〇〇〇斤ノ收穫ヲ有ス。而シテ品質ニ關シテハシンガポール産
ニ劣ラサレハ、價格モ高價ナリ。

同島ノ氣温ハ護謨樹栽培地トシテハ熱帶圈ヲハスレルタメ、氣温稍低
シ。ヨツテ十二月ヨリ一月ニ至ル二ヶ月ハ護謨液採集ノタメノ切付ヲ
行フコト能ハス。更ニ苗樹ノ成長モ熱帶圈ニ比シ一二年遅ルルハ地
理的條件ヨリ受クル制約トシテ止ムヲ得サル缺點ナリ。

更ニ同島カ颱風圈内ニアルコトモ護謨栽培ニ不利ナル條件ヲ構成ス。
以上ヨリシテ南洋諸国ニ比スルトキ同島ニ於テハ生産設備費並生産費
増昂ヲ來シ、ヒイテ生産物ノ割高ヲ來ス所以ナリ。

シカシナカラ現在本邦ノ勢力圈内ニ於ケル唯一ノ護謨產地ナレハ今後
優良苗樹ノ移植ニヨリ單位當リ生産量ノ増加ヲ圖ルヘキナリ。

民國二十五年（一九三六年）瓊崖實業局ノ調査ニヨレハ島内ニ於ケル

護謨園繳ハ儋縣那大地方ヲ中心トシ東部嘉積溪上流地方等ニ於テ大小六十園・護謨植付樹數約二一七千本余栽培面積一〇、五七〇畝余一約一、五〇〇英反一採液可能樹數一八七、一〇〇本余、價格一担四、五〇元前後ニシテ主要仕向地ハ廣東、上海地方ナリ。

園名	所在地	園地面積 (所有株數)	每年產額 (斤)
橋值	那大五嶺山	三八〇〇株	三六〇〇
橋立	，	四〇〇〇	一〇〇〇
梅瓊	，	六〇〇〇	一〇〇〇
天任	，	三〇〇〇	一七〇〇
易通	，	二五〇〇	一七〇〇
鄧瑞英	那大合羅	三〇〇〇	三〇〇〇
李閣	樂會文塘	一〇〇〇	一五〇〇
季文魁	，	八〇〇	不詳
未名	萬全河附近	九〇〇	五〇〇
南興	定安縣石壁南山	一四〇〇	九〇〇
南生	，	一六〇〇	一〇〇〇
南發	，	三六〇〇	一〇〇〇

廣東建設廳工業試驗所調查ニヨル海南島主要護謨經營業（南洋協會編「海南島」）

計	南 王 瓊 南 茂 合 爐 南 盛 林	定安縣石壁南牛山 , , , 定安縣石壁珈琲頭	一 三 〇 〇 〇 ()	二 七 〇 〇 〇 ()	六 〇 〇 〇 〇 ()	二 五 〇 〇 〇 ()	四 〇 〇 〇 〇 ()	六 七 五 〇 ()	八 八 ・ 八 五 〇	四 ・ 五 〇 〇	一 ・ 五 〇 〇
---	------------------------	-------------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	-------------------------	----------------------------	-----------------------	-----------------------

現在ノ株數ヨリ計算セハ總收量四、〇〇〇担(二四〇觔)前後ナリ。

(前掲「海南島」ニヨル)トイフ。
ナホ同島謾謾栽培ノ技術的條件ニ關シテ南支調查會ハ左ノ如キ意見ヲ發表セリ。

一 原價ハ馬來半島ニテハ普通一株二元以上ナルモ、本島ニ於テハ一元三四角ナリ。

- ニ 種子ノ選擇ハ南洋輸入種ニ求メ萌芽ヲマチテ移植スレハ八、九月ハ活著スルモ苗木ヲ輸入スル場合ハ活著四、五割ニ過キス。
- 三 移植時期ハ春秋二季ノ雨季ヲ最適トス。
- 四 移植方法ハ苗ノ根枝ヲ去リ根ヲ一尺余幹ヲ五六寸トシ、地下ニ一尺五寸埋メ周圍ヲ鬆土ヲ以テ埋ム。苗木ノ間隔ハ十八尺―二十尺トス。
- 五 肥料種類ハ鹹魚ノ塩及ヒ海棠油ノ渣カ最モヨク、生塩豆油渣併用ヲ可トス。本島産ノ海棠油渣ハ豆油渣ニ比シ廉價ナリ。小ナル樹ハ油渣ヲ用ヒ大ナル樹ハ塩ヲ用ヒ二三年毎ニ一回毎株約一斗ノ施肥ヲ行フ。
- 六 護謨栽培ハ利潤ヲ得ルマテ相當年限ヲ要スルカ故ニ採集期ニ至ルマテ椰子、檳榔、珈琲、棉花、煙草、苧麻ソノ他ノ穀物ノ間作ヲ行ヒ資本ノ流動ヲ迅速、採算ヲ有利ナラシムルヲ可トス。

ニ 氣 象

海南島ノ氣象ニ就テハ同島ニ完備セル記録ナシ。然シナカラ亞熱帶國ニ屬シ一日中ノ氣候屢々變化シ晝ハ暖ク、夜ハ涼シク、海口市附近ハ空氣稍濕氣ヲ帶ヒ北部地方ハ十二—二月マテハ氣溫低下シテ五〇度ニ至リ、毎年平均最高氣溫ハ九一度、最低ハ六四・三度ニシテ全年平均七七・五度ナリ、東部地方モ大差ナク最低溫度五〇度ヲ降ルコトナク、平均溫度約七〇度ナリ。

19.

總 平 均	十	十	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	月 別
	二	一											
九 一 〃	七 九 〃	八 三 〃	八 七 〃	九 三 〃	九 七 〃	九 六 〃	九 四 〃	九 四 〃	九 六 〃	九 二 〃	八 〇 〃	八 〇 〃	最 高 溫 度
六 四 ・ 三 〃	六 二 〃	五 八 〃	六 二 〃	七 三 〃	七 五 〃	七 五 〃	七 三 〃	七 二 〃	六 二 〃	五 八 〃	五 二 〃	五 三 〃	最 低 溫 度
七 七 ・ 五 〃	七 〇 ・ 六 〃	七 〇 ・ 五 〃	七 四 ・ 五 〃	八 三 ・ 〇 〃	八 五 ・ 五 〃	八 三 ・ 五 〃	八 三 ・ 〇 〃	七 九 ・ 〇 〃	七 五 ・ 〇 〃	六 六 ・ 〇 〃	六 六 ・ 五 〃	六 七 ・ 五 〃	每 月 平 均

イ、溫度表（瓊海關民國十七年度）

ロ、雨量（瓊海関測定ニヨル北部全年合計降雨日時表）

年次	年合計日	年合計時	毎月平均日	毎月平均時	全年合計雨量	全年每月平均
民國十五年	一五七日	七〇一・七二時	一三日	五八・四八時	八六・八九時	七・二四時
〃十六年	一三二	四一七・五五	一一	三四・七八	六五・六九	五・四七
〃十七年	一五〇	五五八・〇〇	一三	四六・五〇	九七・五三	八・一三

雨量多キ月	八・九・七	月	平均雨量	一六・九四英吋
雨量少キ月	一・二・十・十二	月	〃	〇・二二〃

年平均雨量 約八四吋

ハ、暴風（瓊海関観測）

年	月	日	毎時風間	毎速秒
一九二六	六	九	五〇―六〇哩	二二―二六・八米
一九二七	八	二	四〇―五〇〃	一八―二二〃
一九二八	七	一	五〇―六〇〃	二二―二六・八〃

季節風ハ冬季ハ北東、夏季ハ南東、南西ヨリ來ル、然シテ冬季ニアリテハ絶エサルモ夏季ニアツテハ往々日中、夜間共ニ無風状態トナル事多シ。

D
參
考
資
料

一 國際限產協定

生護謨ノ生産、在荷ノ多寡ニヨリ市價ノ動搖著シキモノアリ（註一）
主要生産地ヲ有スル英國ノ主唱ニヨリ一九三四年四月末國際限產協定
成立セリ、目的トスル處ハ「既存世界護謨在荷ヲ常態的水準マテ低減
シ供給ヲ組織的ニ需要ト一致セシメ且ツ適正ナル市價ヲ維持シ以テ生
産者ノ採算ヲ可能ナラシムル」ニアル。參加國ハ英國、和蘭、シヤム
等ノ護謨生産消費ニ於ケル關係國ヲ網羅セリ。

限產協定ノ骨子ハ次ノ如シ

一 本協定ハ各政府ニヨリ法律的效力ヲ有セシムルコト

一 護謨生産國全部ヲ包括スルコト

一 各國ニ割當ツル生産量ハ最初ニオイテ一九三四年以降一九三八年

ニ至ル五ケ年間ノ毎年基本割當量ヲ決定スルコト

一 總テノ新規護謨植付ハ全般的ニコレヲ禁ス

一 本協定ノ適用施行セラルル地方ハ左ノ如シ

一 馬來半島（海峽植民地、馬來聯邦州、同非聯邦州）ヲブアン、

ブルネイ、ニ蘭領東印度、ニ錫蘭、ニ英領印度（ビルマヲ含ム）ニ英領北ボルネオ、ニサラワク、ニシヤム（註二）ニ佛領印度支那
 一産地在荷ヲ輸出許可量ノ二ヶ月ニ限定
 註一

紐育市場護謨價格（一キロ當リ）

一九二八年	二二・六〇セント
一九二九	二一・一〇
一九三〇	二一・〇〇
一九三一	六・四一
一九三二	四・一五
一九三三	六・一五
一九三四	二・八三
一九三五	二・三〇
一九三六	一・八一

註二

シヤム及佛領印度支那ニ對シテハ特別規定設ケラル、即、シヤム
 ニアリテハ植付反別ハ三一、〇〇〇英反ヲ限度トシ其ノ輸出量ハ
 毎年ノ規定限度ニヨル。更ニ佛領印度支那ニアリテハ佛本國一九
 三三年輸入數量カ佛領印度支那輸出數量ノ約四倍ニ達セル事實ニ
 鑑ミ佛領印度支那ヨリ輸入スヘキ數量ニ付テハ兩國間ニ別種協定
 ヲ設ク。

標準輸出割當高 (單位噸)

	一九三四	一九三五	一九三六	一九三七	一九三八
英領馬來	五〇四〇〇〇	五三八〇〇〇	五六〇〇〇〇	五八九〇〇〇	六〇二〇〇〇
蘭領印度	三五二〇〇〇	四〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五二〇〇〇〇	五四〇〇〇〇
セイロン	七七五〇〇	七九〇〇〇	八〇〇〇〇	八一〇〇〇	八二五〇〇
北ボルネオ	一二〇〇〇	一三〇〇〇	一四〇〇〇	一五〇〇〇	一六〇〇〇
サラワク	二四〇〇〇	二八〇〇〇	二〇〇〇〇	三二五〇〇	三二〇〇〇
シヤム	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇
英領印度	六八五〇	八二五〇	九〇〇〇	九二五〇	九二五〇
ビルマ	五一一五〇	六七五〇	八〇〇〇	九〇〇〇	九二五〇
合計	九九六五〇〇	一〇八八〇〇〇	一二一五〇〇〇	一二七〇〇〇〇	一三〇六五〇〇

右ハ一九三四―三八年間ノ輸出割當量ヲ決定セルモノナルモ新タニ一九三九―四三年ニ至ル五ヶ年延長セリ。而シテ現在ノ限産率ハ生産能力ノ五〇%ナリ。

平均	南洋護謨殖	スマトラ殖	南洋護謨	馬來護謨	ボルネヲ護謨	熱帶產業	昭和護謨	日產護謨	會社名	設備費
五七九	六〇五	五二〇	四九二	八二〇	八三〇	六八九	三四五	三三三	日產護謨	三三三 円

ニ護謨生産内外統計
 第一表、邦人護謨園生産設備費（植付面積一英反當リ）

Table with multiple columns and rows, containing statistical data for rubber production and equipment costs. The text is faint and partially illegible due to the quality of the scan.

第二表、一英反當リ採取量（昭和十一年度）

會社名	年額採取量單位封度
スマトラ拓殖	五一三
馬來護謨	四五五
スマトラ興業	三三五
日産護謨	三九九
ボルネオ護謨	四一〇
熱帶産業	三七六
南洋護謨	四三四
南洋公司	三二五
平均	四〇六

第三表、邦人經營主要ゴム園（昭和十三年末現在）

會社名	ゴム園所在地	植付面積(單位千ヤ)	生産能力(千封度)
日産護謨	英領北ボルネオ 馬來ヂヨホール、 タワオ、バトバハ	一八三八五	七一四六
昭和護謨	ジヨホール スマトラ	一六四五一	三七七五
熱帶産業	馬來ヂヨホール ヂヤンビル	七五六七	一六四〇
ボルネオ護謨	スマトラ	二五九二	一三二〇
馬來護謨	馬來半島	六九九七	一〇四〇
南國産業	爪哇	一〇九	一〇〇〇
南洋護謨	馬來ヂヨホール	六六九七	一九〇〇
スマトラ拓殖	スマトラ	四七四八	二四六〇
南洋ゴム拓殖	馬來ヂヨホール	一七二五	六〇〇

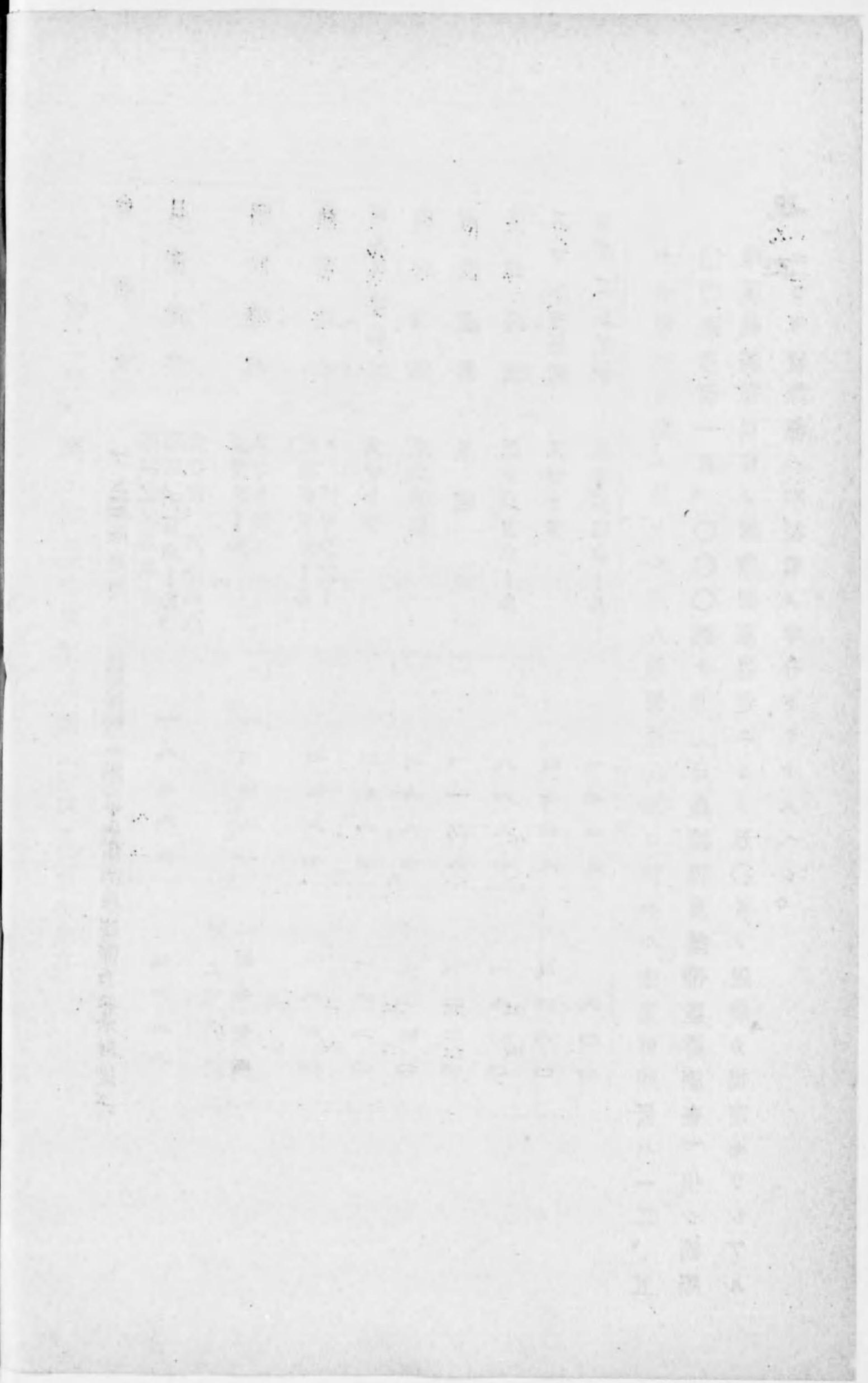
29.

ナホ現在南洋ニ於ケル邦人經營護謨園ニ於ケル生産可能量ハ一、二、五〇〇噸乃至一五、〇〇〇噸ナリ（日産護謨及熱帶産業調査）但シ國際護謨統制委員會ノ國際限産協定ニヨリ五〇%ノ限産力規定セラレアルニヨリ實際額ハ右數量ノ半分トミナスヘシ。

(1) 普通苗

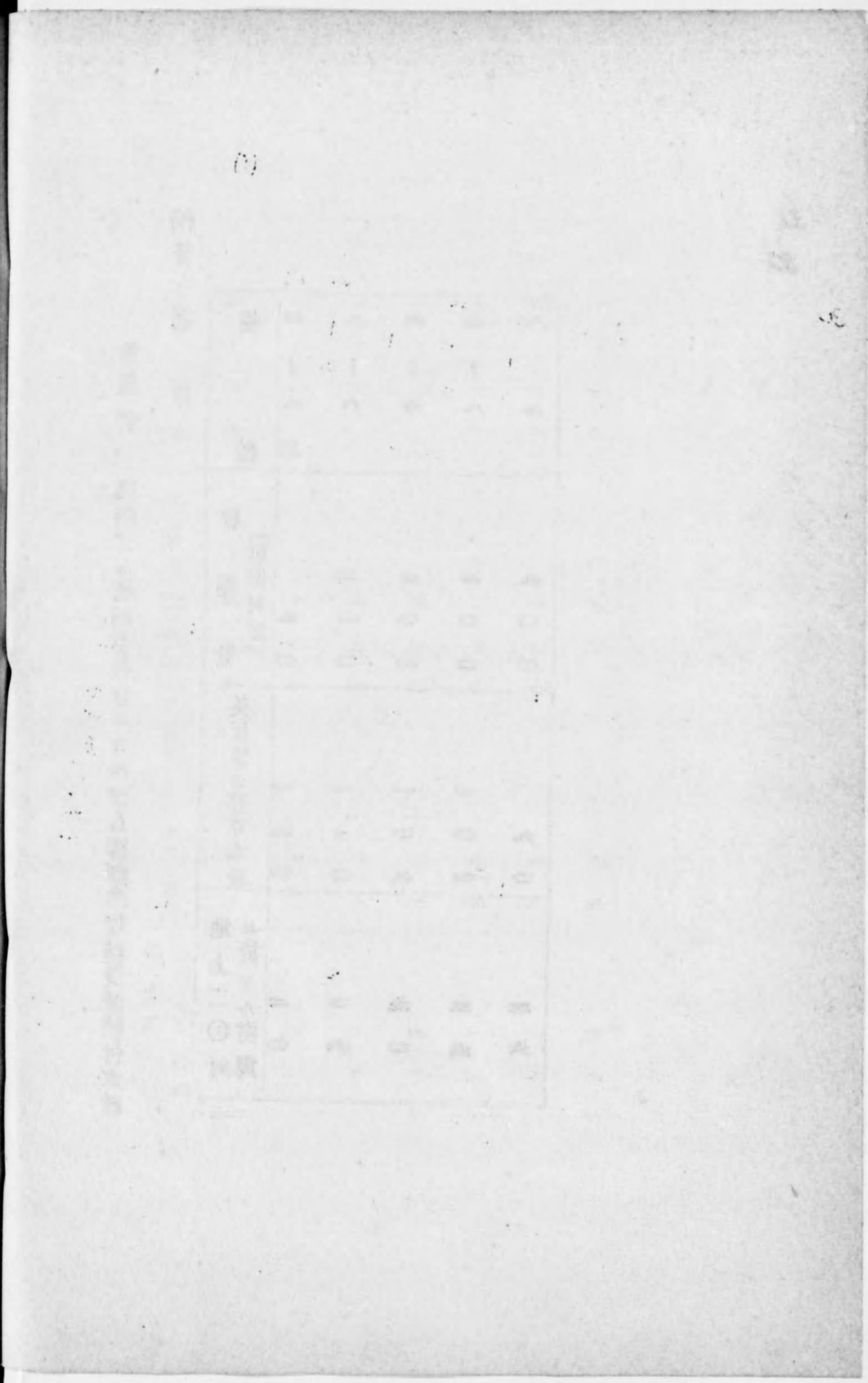
第四表、國際ゴム統制委員會ニヨルゴム樹標準收穫量並植付本數

樹齡	四 — 五 年	五 — 六 年	六 — 七 年	七 — 八 年	八 — 九 年
收穫量 (單位封度)	二 〇 〇	三 〇 〇	四 〇 〇	五 〇 〇	五 〇 〇
英反當リ存立本數	一 〇 〇	一 〇 五	一 〇 〇	一 〇 〇	九 〇 〇
地上二〇吋 ニ於ケル樹周	二 〇	二 六	三 〇	三 三	三 六



芽接苗(優良樹)

樹齡	五	六	七	八	九	一〇	一一
收穫量(單位封度)	四〇〇〇	六〇〇〇	七五〇〇	九〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
英反當り存立本數	一二〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	九〇〇〇	八五〇〇	八五〇〇
地上三六吋ニ於ケル樹周	二〇	二四	二七	三一	三三	三五	三六



終